

---

# 海外養殖魚研究会報

発行：海外養殖魚研究会

連絡先 〒171  
東京都豊島区南池袋3-15-13  
前田ビル205号

(株)国際水産技術開発内  
Tel. 03(982)7139

No. 9 Mar. 1980

---

才10回海外養殖魚研究会が、3月22日(14:00~17:00)(株)OAFIC  
会議室で開催されました。出席者は下記の通りでした。

加藤竹一郎	(財)海外漁業協力財団
増尾 致和	"
横川 次寛	"
中沢 昭夫	JICA 特別嘱託
高野 昌和	青年海外協力隊
森本 直樹	(株)国際水産技術開発
座間味 真	"
池, 上 宏	"

[テーマ] 世界におけるコイ科魚類の養殖について(その2)

1. 中沢：メキシコのコイ科魚類、およびその増養殖

。メキシコには66種のコイ科魚類の生息が確認されている。このうち、コイ、フナ(キンギョ)、ソウギョ、レンギョの4種は外国からの移植種である。

。ハイチ経由で移植されたコイは、イスラエルで改良されたドイツコイで、メキシコ市より北の中央高原では増殖しており、Guadalajara, Durango にはフ化場がある。

○ソウギョは中国から1960年代に3回にわたって6000尾が移植された。又、1970年代には人工化が行なわれており。その結果、Infer-willodamでは多量の稚魚が確認されているが、成魚は未だ確認されていない。

○レンギョは移植後、成魚が確認されている。

○他のコイ科魚類は主としてアメリカとの国境付近に多く分布している。このうち、Ptychocheilus lucius (Buffalo fish, Colorado Squaw fish) は体長1.8m, 体重45kgに達する大型魚で、養殖魚として興味深い。Notemigonus crysoleucas (Golden shiner) はハワイではカツオの生餌に使用されている。Algansea rubescens (Sardina) および Xystrosus popoche (Popoche) は、Chapala湖で、それぞれ20~30トンおよび70トンの漁獲がある産業種である。

2, 座間味・森本・池, E: Jhingran, V. G. 1968. Synopsis of biological data on catla Catla catla (Hamilton, 1822).

FAO Fisheries Synopsis No. 32. FAO. Rome. を要約した。

○ 分類, 形態, 生態, 増殖について簡単な要約を行ない, インドで使用されている簡素な技術の利点および中国で使用されている技術との相違などが明らかにされた。

---

次回は増尾 致和氏に「ラオスにおける増養殖」の話をしていただく予定です。

日時: 4月19日 午後2時より

場所: (株) OAFIC 会議室

---

懸案の「各国増養殖事情シリーズ」は原稿も集まりだしたので、なるべく早く印刷・出版することが再確認されました。編集・印刷などの仕事は(株)国際水産技術開発が行ないますので皆様の御協力をお願い致します。